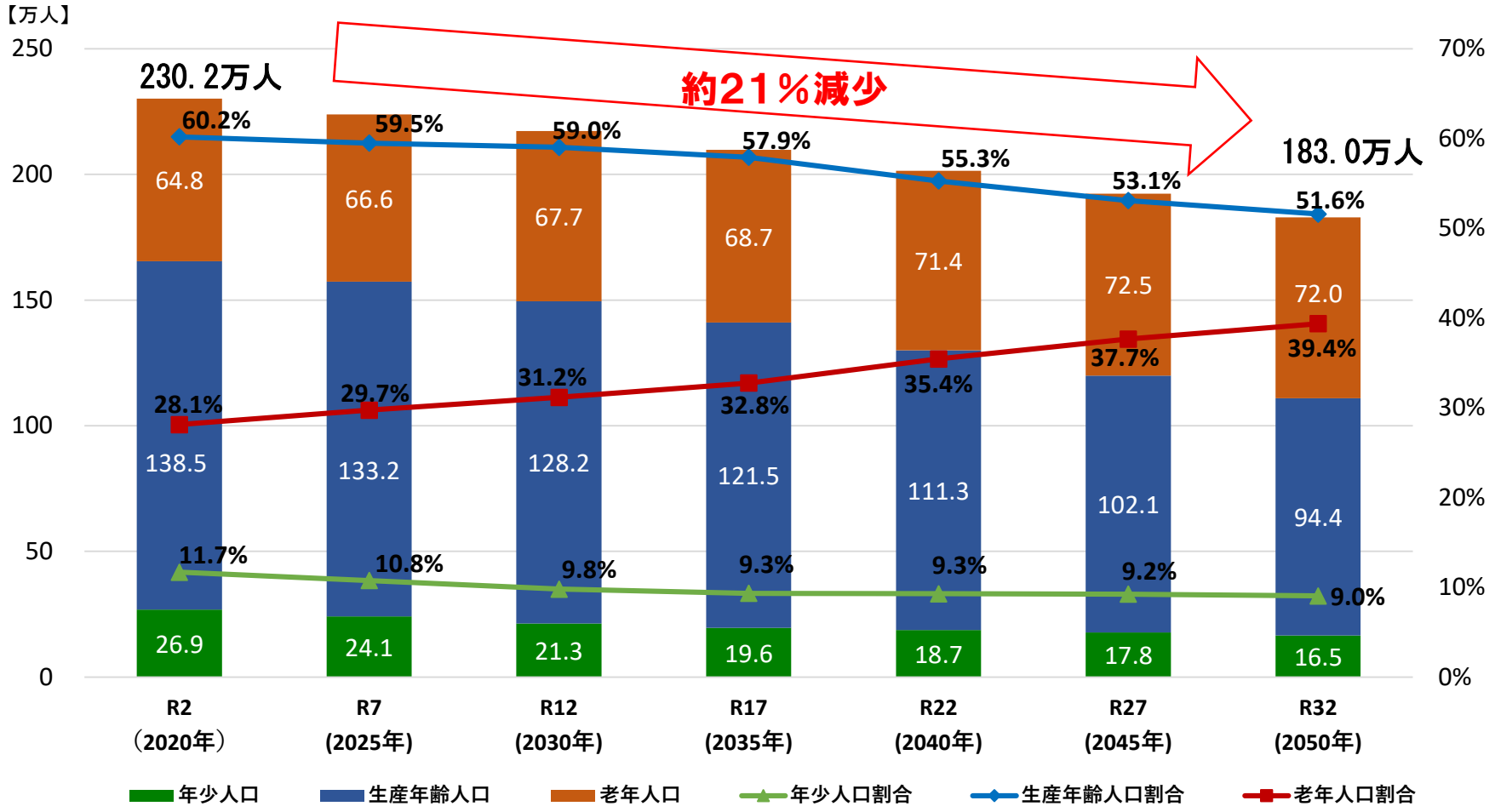
資料２－１

宿泊税を活用した今後の観光振興施策について

仙台・宮城観光ＰＲキャラクター
むすび丸

1. 観光を取り巻く現状と課題　①人口減少

ポイント①	○国立社会保障・人口問題研究所の推計…2050年の宮城県の人口＝約183万になる見込み ○生産年齢人口（15～64歳）及び年少人口（14歳以下）は、今後さらに減少 ○老年人口（65歳以上）は増加し、2050年の高齢化率は39.4%になる見込み



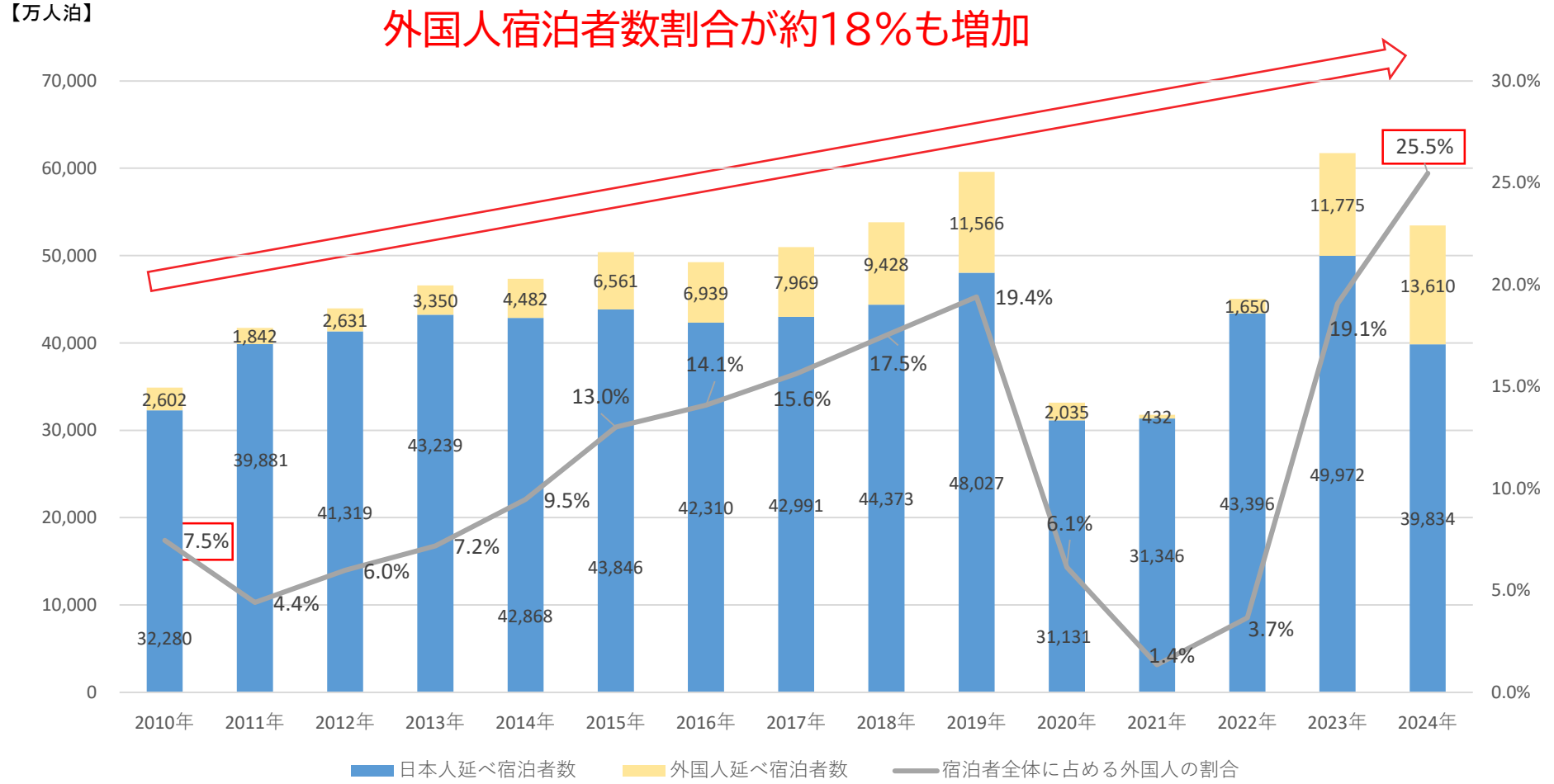
出典：日本の地域別将来推計人口（令和５年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

⇒県内宿泊者のうち、県内在住者は全体の約2割程度。人口減少に比例して、県内在住の宿泊者は確実に減少する見込みであり、新たな顧客獲得が必要です。

1. 観光を取り巻く現状と課題　①人口減少

ポイント①

○震災後の宿泊者数の推移を見ると全国的に日本人宿泊者数の伸びは鈍化、一方で訪日外国人の割合が増えている状況。



「宿泊旅行統計調査」（観光庁）より作成

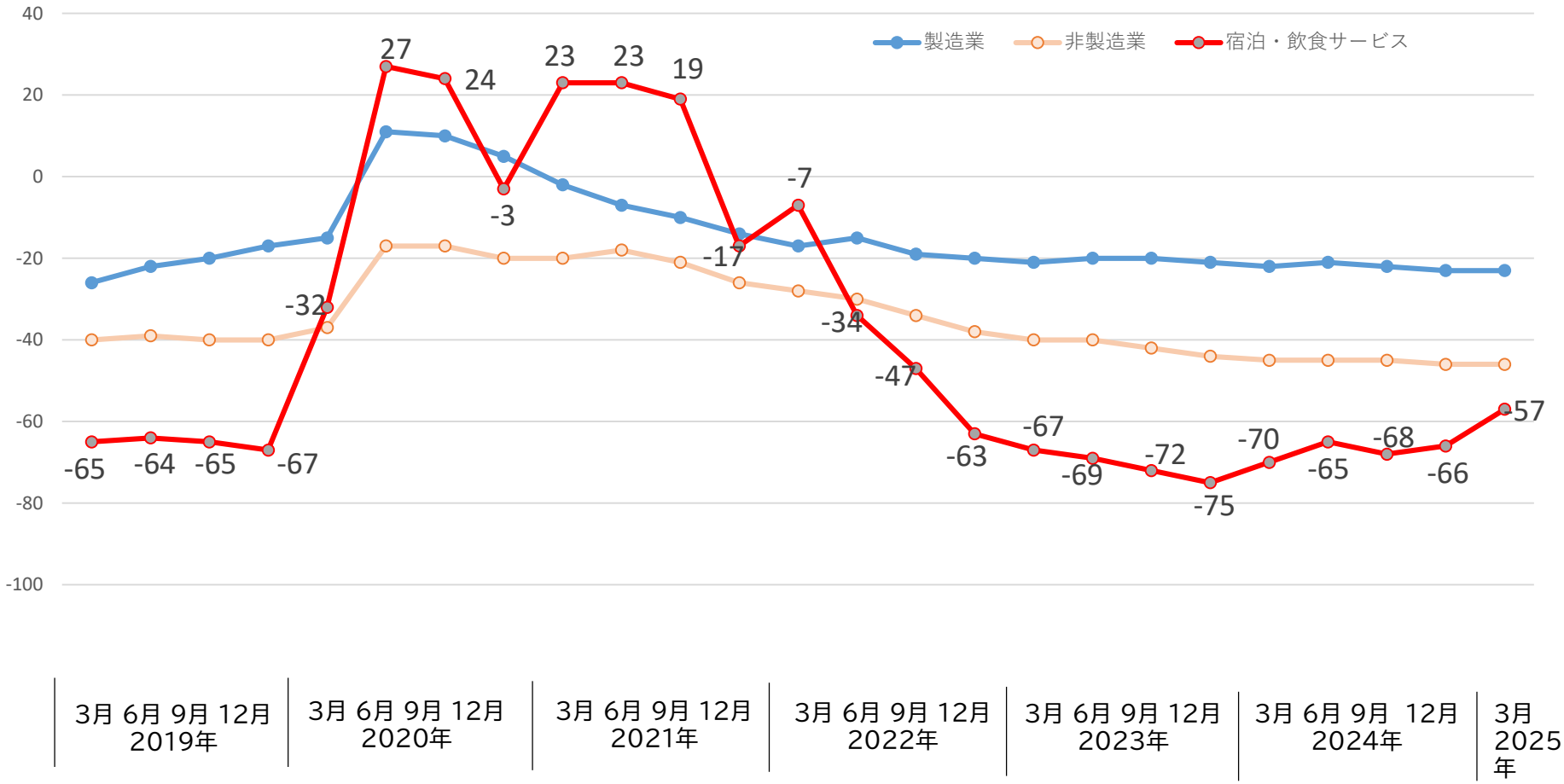
⇒全国的に人口減少が進む中、国内の限られた需要をどのように取り込んでいくか、高付加価値化（観光消費額単価のアップ等）に向けた対応が必要です。

1. 観光を取り巻く現状と課題　②人手不足

ポイント②	コロナ禍以降、宿泊業では他業種以上に人手不足が深刻な状況

企業の雇用人員判断D.Iの推移

【%ポイント】

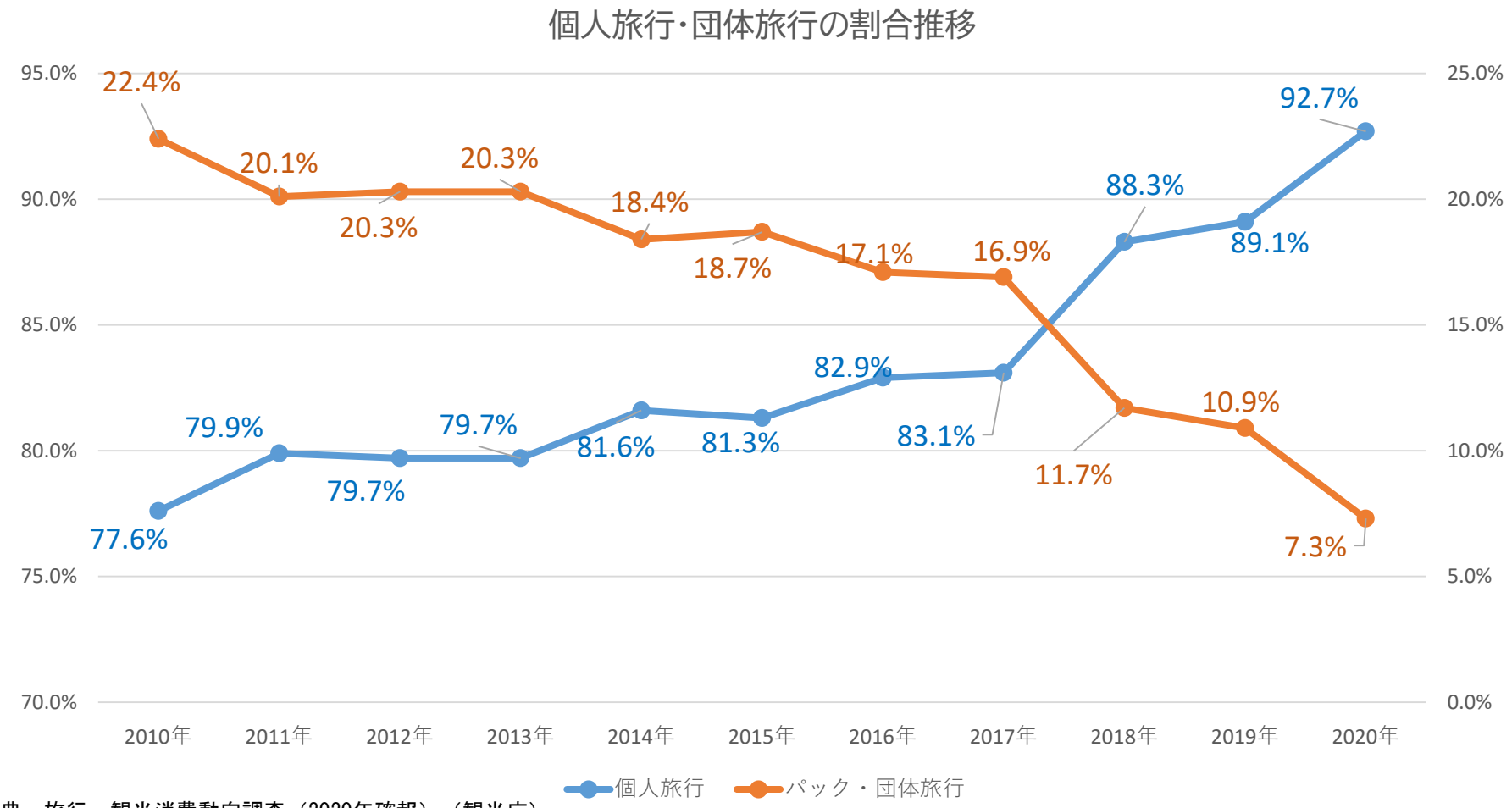


「全国企業短期経済観測調査」（日本銀行）より作成

⇒宿泊業の持続性、収益性を高めるためにも人手不足対策は急務となっています。

1. 観光を取り巻く現状と課題　③旅行形態の多様化

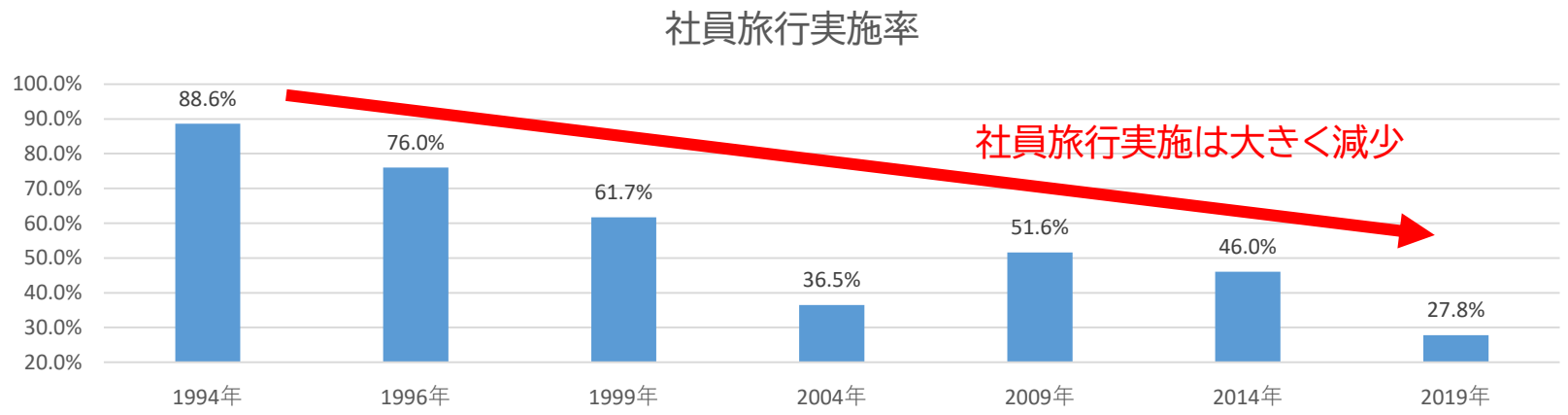
ポイント③	旅行形態、観光ニーズが多様化している。



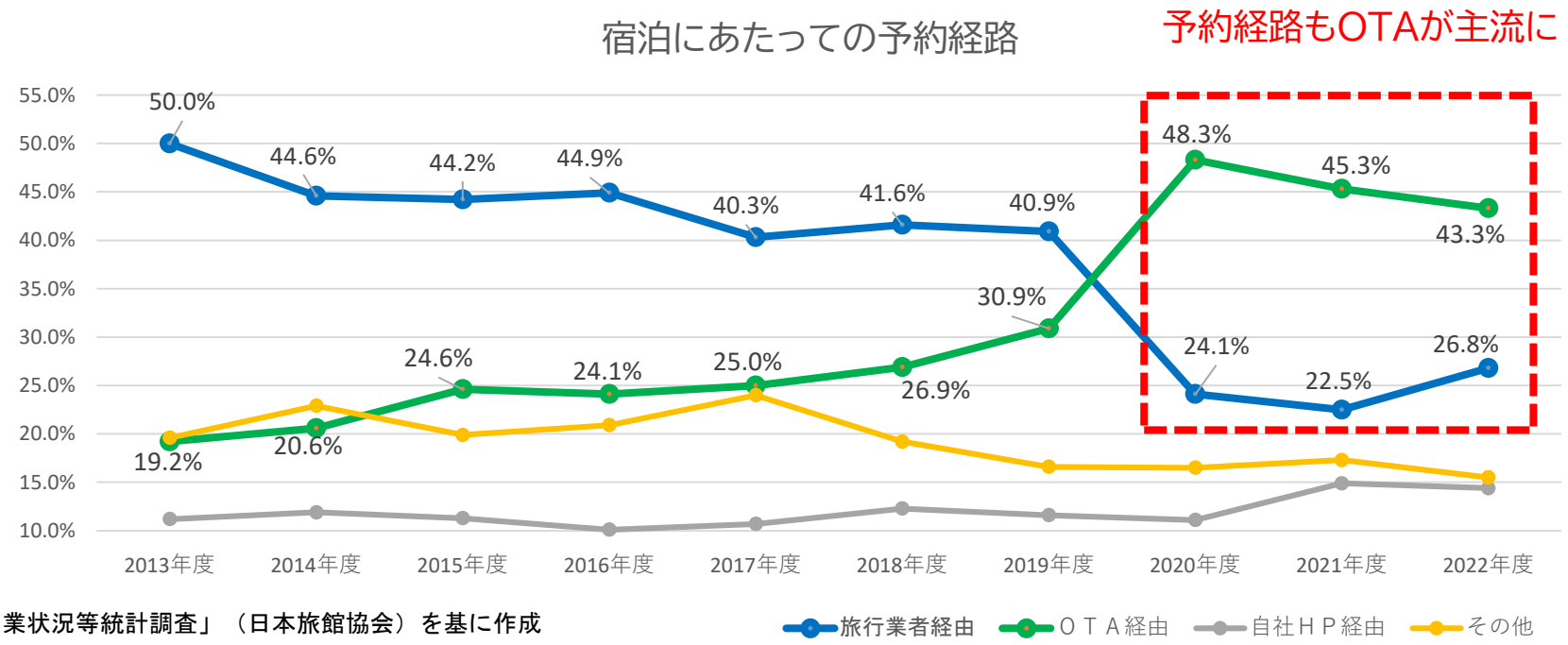
出典：旅行・観光消費動向調査（2020年確報）（観光庁）

⇒個人旅行客の増加など、多様化したニーズへの対応（観光コンテンツの造成等）が必要となっています。

1. 観光を取り巻く現状と課題　③旅行形態の多様化



出典：社内イベント・社員旅行等に関する調査（産労総合研究所）



「営業状況等統計調査」（日本旅館協会）を基に作成

⇒柔軟に対応できる体制づくり、環境整備が急務となっています。

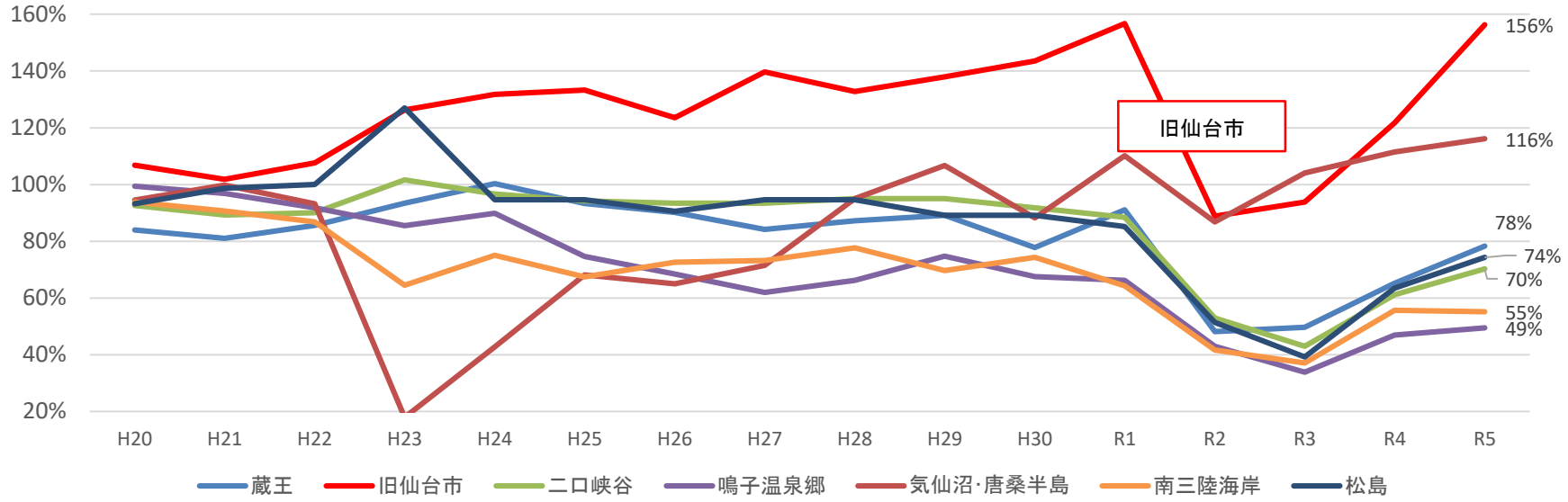
1. 観光を取り巻く現状と課題　④宿泊観光客数

ポイント④

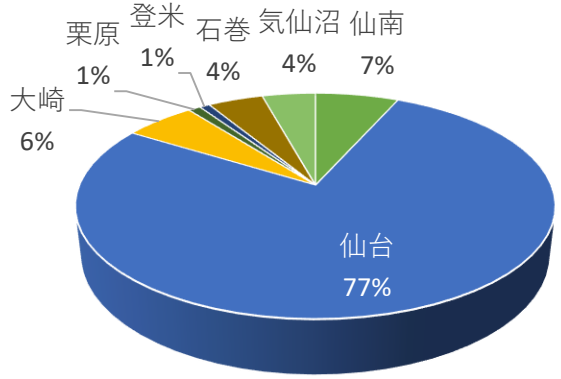
対H19年(H10年以降震災前までで最多)比で、「旧仙台市」(※)が156%と大幅増加
一方、仙台市中心部を含む「旧仙台市」以外は、蔵王【78%】、松島【74%】、二口渓谷(秋保、作並、奥新川)70%】、鳴子温泉【49%】と大幅に減少

宿泊者数の増加率(対H19年比)

(※)仙台市のうち旧秋保町、旧宮城町作並・奥新川・定義、旧泉市を除く。



R5圏域別宿泊者の割合



出典：宮城県観光統計概要

【参考:R5宿泊者数の対H19比】県全体115%、栗原58%、登米214%、石巻110%

⇒地域間で、宿泊観光客数に差が出ており、今後は仙台など集客のある地域からいかに県内全域に送客していくかが、持続可能な地域主体の観光地域づくりを進めていく上で大きな課題となっています。

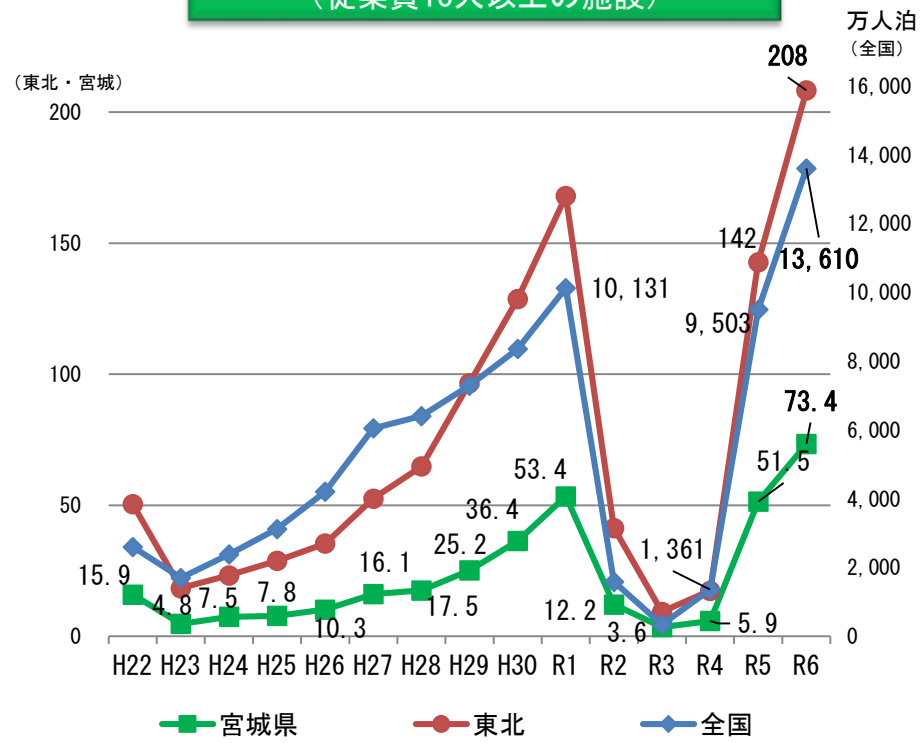
1. 観光を取り巻く現状と課題　⑤インバウンド

ポイント⑤

〇訪日外国人宿泊者数については、令和5年に水際対策の緩和に伴い、51.5万人と、コロナ禍前の令和元年とほぼ同水準まで回復し、令和6年も、円安による日本への旅行需要の増加により、本県においても過去最高となる約73万人泊を記録する見込み

〇一方で、全国の伸びに比べると低位となっており、全国におけるシェアも0.5%にとどまっている。

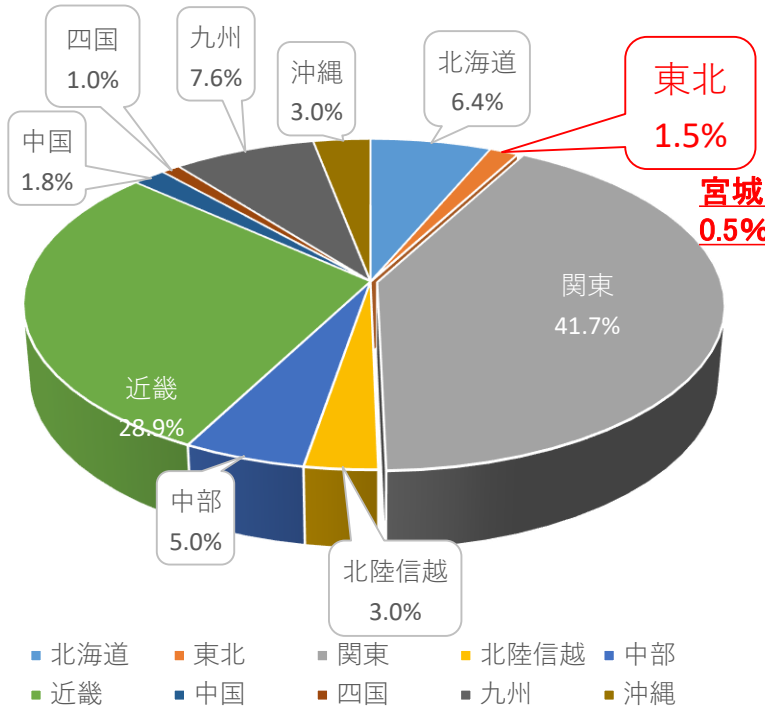
全国・東北・宮城の外国人宿泊者数の推移（従業員10人以上の施設）



出典：宿泊旅行統計調査（観光庁）

※R6は速報値

地区別外国人宿泊者数の割合



宮城県は0.5%

出典：宿泊旅行統計調査（観光庁）

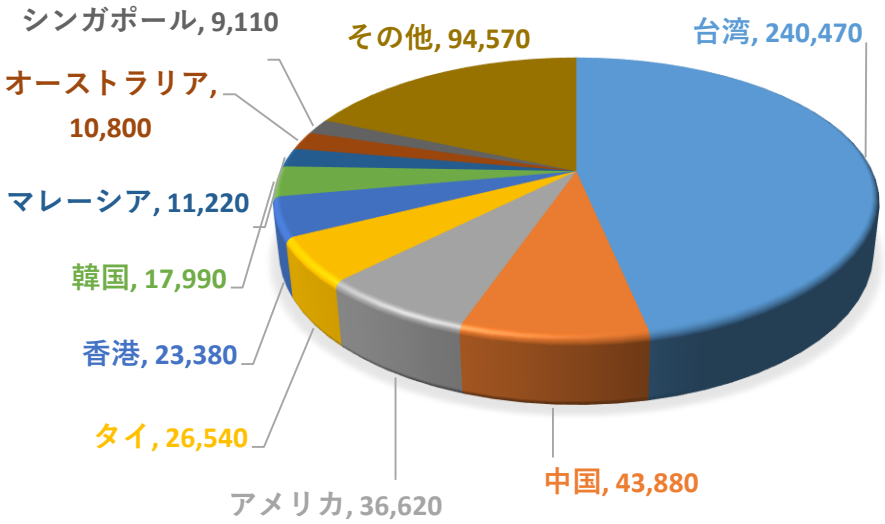
※R6は速報値

1. 観光を取り巻く現状と課題　⑤インバウンド

ポイント⑤

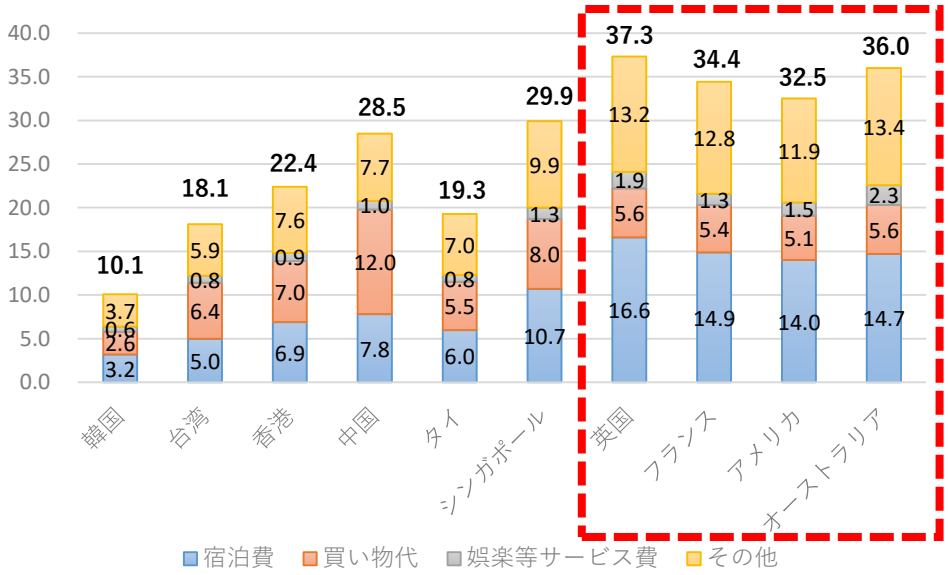
旺盛なインバウンド需要を十分に取り込めていない。
仙台空港との定期便のある台湾、中国からの訪日客が高い傾向にあるが、今後は購買意欲の高い欧米豪などからの誘客にも積極的に取り組んでいく必要がある。

外国人延べ宿泊者数（人）



出典：Ｒ５宿泊旅行統計調査（観光庁）

国籍･地域別消費単価（2023年）（万円）



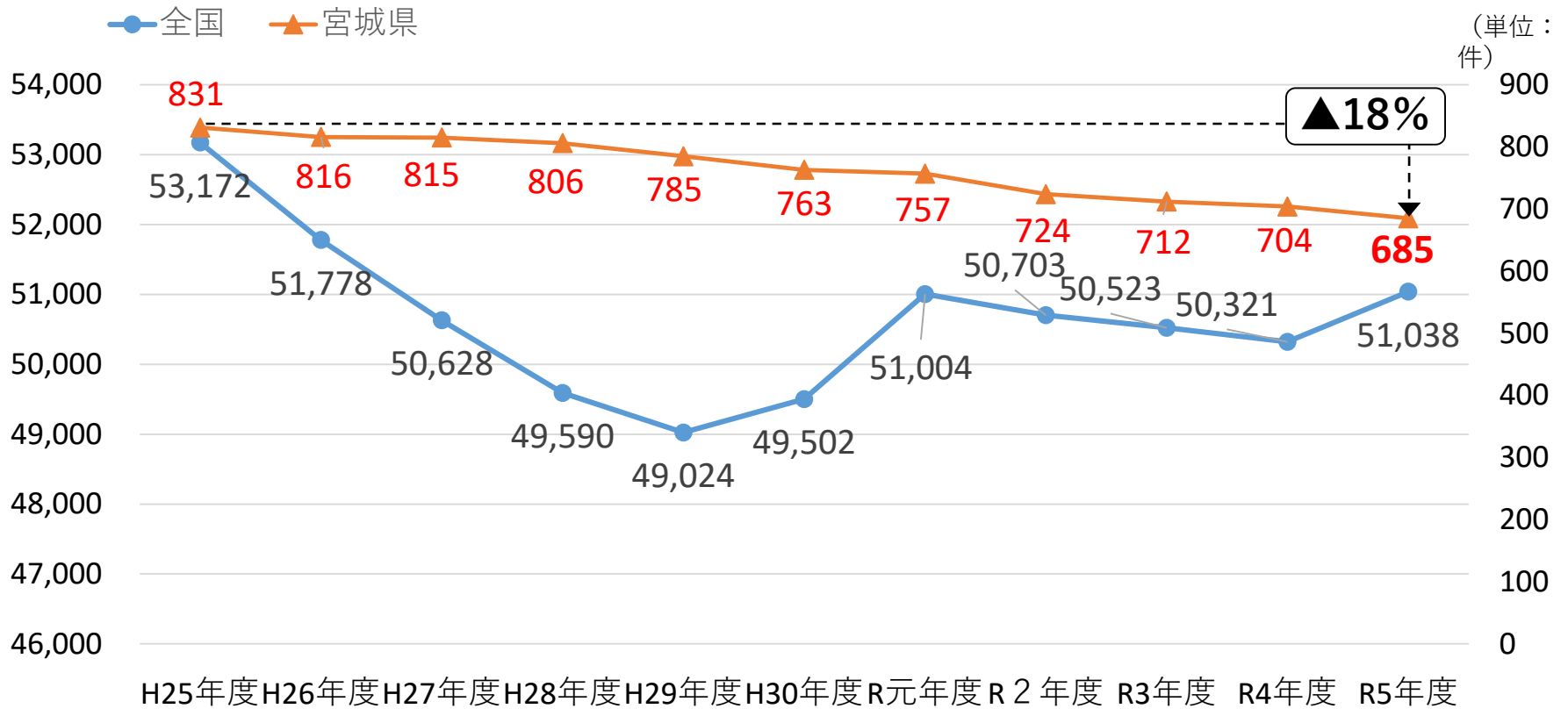
出典：Ｒ５訪日外国人消費動向調査（観光庁）

2024年の訪日外国人消費額が8兆円を超え、2023年の5兆3,000億円を上回り過去最高となった。これは、半導体や鉄鋼を上回り、日本の主要な輸出品である自動車に次ぐ規模になるなど、インバウンドの経済効果は大きくなっている。

1. 観光を取り巻く現状と課題　⑥厳しい経営環境

ポイント⑥	ホテル・旅館の施設数の過去10年間の推移をみると、全国では、平成25年度には53,172件あった施設は、令和5年度には4.0%減の51,038件まで減少した。 宮城県は、平成25年度には831件あったが、令和5年度には、18%減の685件まで減少しており、全国に比べ減少率が大きくなっている。

全国・宮城県のホテル・旅館の施設数推移（過去10年間）



出所：厚生労働省「衛生行政報告例」

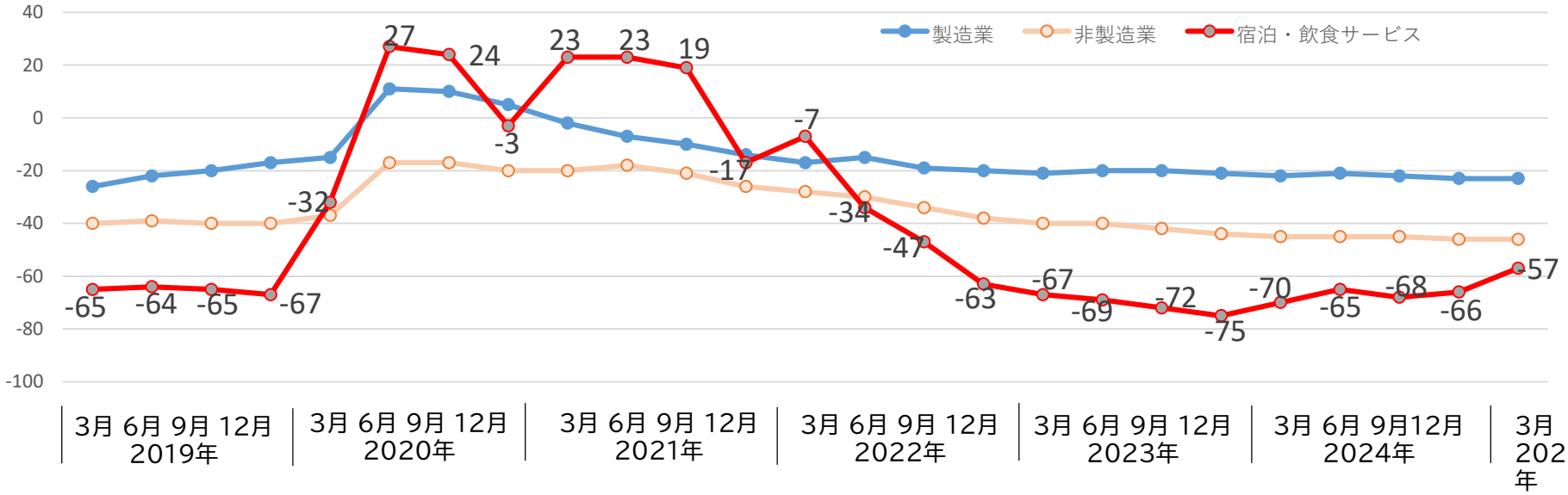
1. 観光を取り巻く現状と課題　⑥厳しい経営環境

ポイント⑥	コロナ禍以降、宿泊業では他業種以上に人手不足が深刻な状況 物価高に歯止めがかからず、収益にも影響

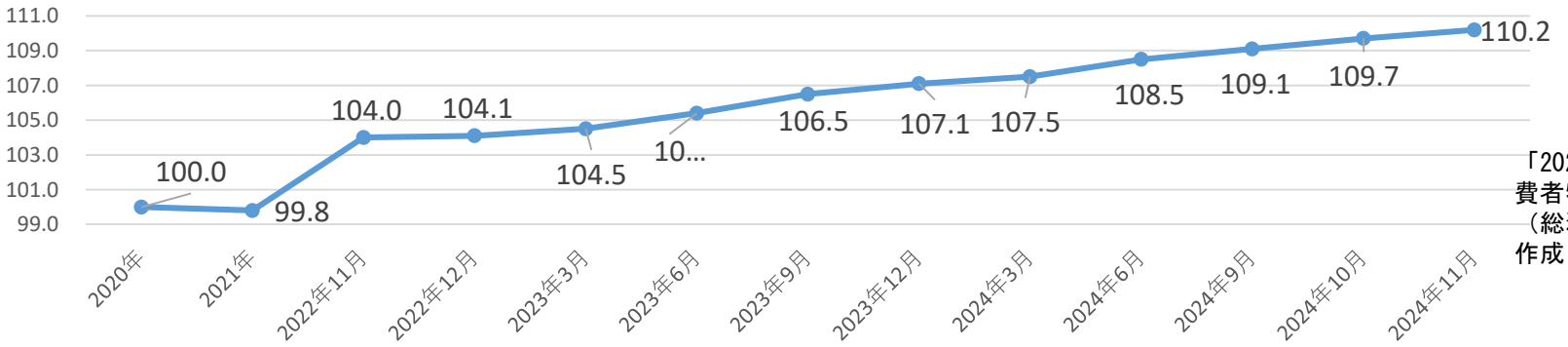
【%ポイント】

企業の雇用人員判断D.Iの推移

「全国企業短期経済観測調査」（日本銀行）より作成



消費者物価指数　総合指標の推移（2020年を100として）

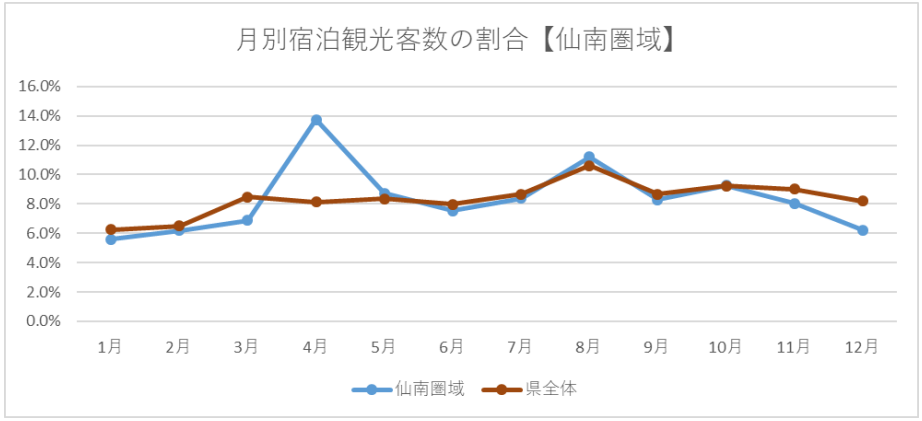


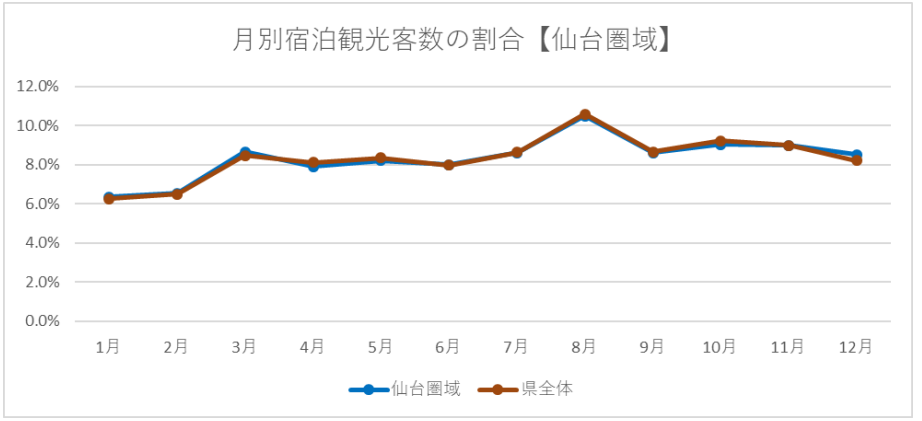
「2020年基準消費者物価指数」（総務省）より作成

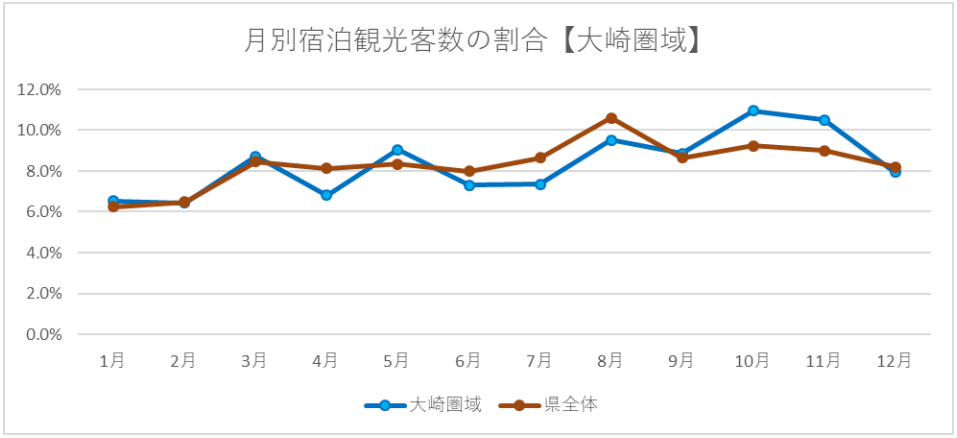
⇒厳しい経営環境の中、足腰の強いしなやかな宿泊業の強化が重要。

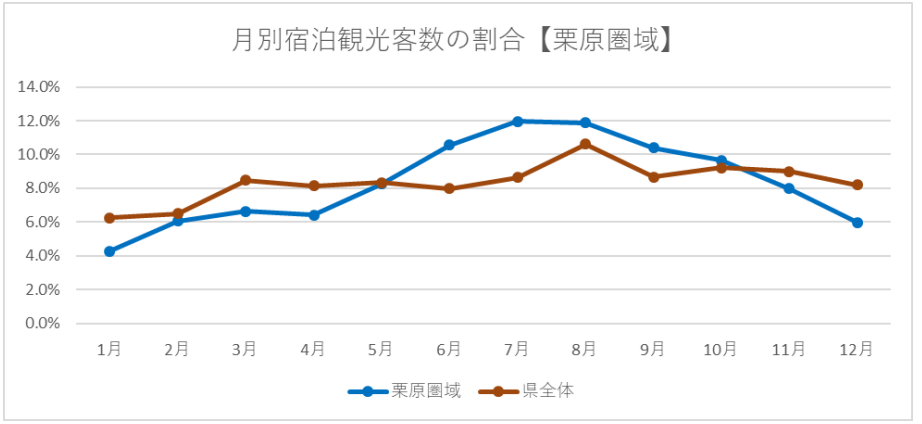
1. 観光を取り巻く現状と課題　⑥厳しい経営環境

ポイント⑥	観光は繁閑期があり、収益性にも影響。





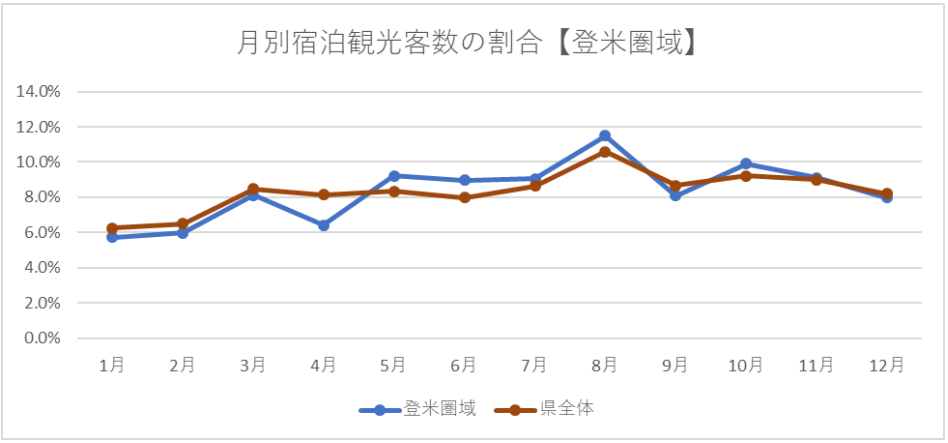


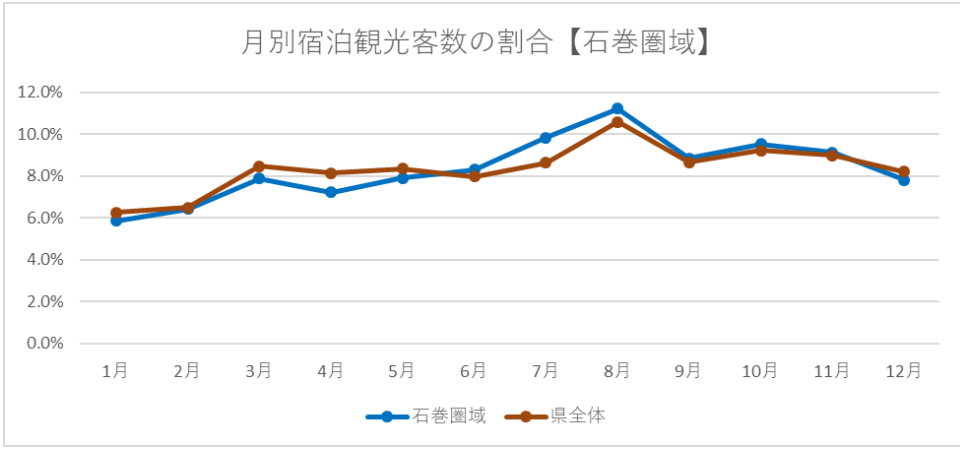


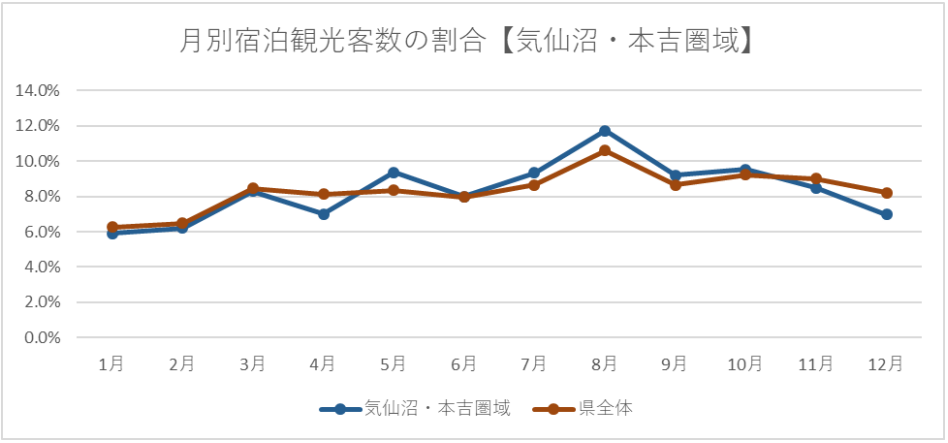
出典：宮城県観光統計概要

1. 観光を取り巻く現状と課題　⑥厳しい経営環境

ポイント⑥	観光は繁閑期があり、収益性にも影響。







出典：宮城県観光統計概要

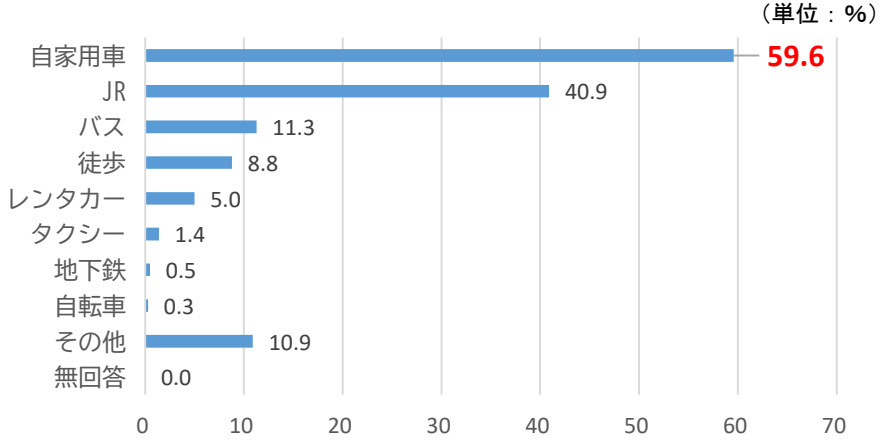
⇒グリーンシーズンなどの閑散期に足を運んでもらえるような観光コンテンツ磨き上げや適時適切な情報発信が必要

1. 観光を取り巻く現状と課題　⑦県内観光地における交通手段

ポイント⑦

○県外客の県内観光地における移動手段は、自家用車、JRが多いが、バス、レンタカー、タクシーも需要あり。
○仙台空港からの移動先は県内55%、県外45%であり、県内のうち仙台市内が約8割を占める。

県内観光地における利用交通機関【県外客】



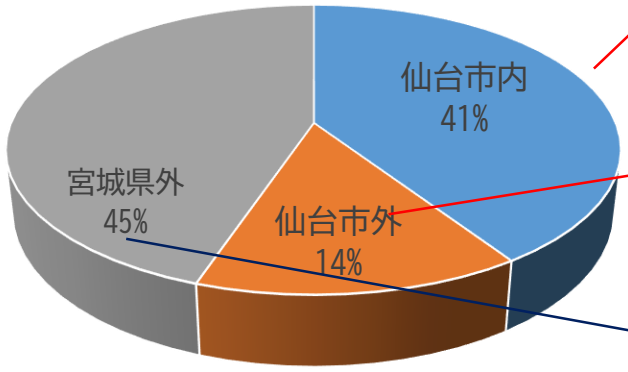
（単位：%）

圏域名	交通手段					
仙南圏域	自家用車	63.4	JR	30.2	バス	13
仙台圏域	自家用車	57.5	JR	44.8	バス	16.1
大崎圏域	JR	57.0	自家用車	47.1	徒歩	4.5
栗原圏域	自家用車	71.3	レンタカー	2.5	JR	1.3
登米圏域	自家用車	97.1	徒歩	2.9	自転車	2.9
石巻圏域	自家用車	63.0	JR	42.0	レンタカー	9.3
気仙沼・本吉圏域	自家用車	83.7	JR	9.9	レンタカー	7.8

【調査内容】県内13地点で観光地点までの利用交通機関をヒアリング調査

出典：宮城県観光客実態調査

【図２】仙台空港からの移動先



宮城県内
55%

【仙台市外の主な場所】
①松島海岸（松島町）6%
②イオンモール名取（名取市）4%
③松島駅（松島町）1%
④遠刈田温泉（蔵王町）1%
⑤蔵王郷リゾート（蔵王町）0.4%

【宮城県外の主な場所】
①銀山温泉（山形県）4%
②花巻温泉（岩手県）4%
③一関市猊鼻渓等（岩手県）3%
④山形駅（山形県）2%
⑤奥入瀬渓流（青森県）2%

出典：東北観光推進機構　東北観光ＤＭＰ

⇒県内各地への周遊を促すために、自家用車以外の交通手段を利用する観光客向けの二次交通の充実も必要

2．第６期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策①

1．計画期間　令和７年４月から令和１０年３月まで【３か年】

2．プラン概要　人口減少社会において観光客の減少が見込まれる中で、**消費額単価の高い宿泊客やインバウンド**を積極的に取り込み、交流人口の拡大や県内経済の活性化を図ります。

主な数値目標

目標指標	R元【実績】	R5【実績】	R9【目標】	ポイント
宿泊観光客数	989 万人泊	943 万人泊 【県内シェア】 仙台圏域77% 他圏域23%	1,104 万人泊 【県内シェア】 仙台圏域75% 他圏域25%	☞各圏域の実情に応じて、圏域ごとに目標値を設定します。 ☞仙台圏域から県内全域への送客を図ります。

各圏域の目標値

圏域	R9(目標)	対R5	圏域	R9(目標)	対R5
仙　南	75 万人泊	＋12	仙　台	830 万人泊	＋103
大　崎	87 万人泊	＋33	栗　原	11 万人泊	＋2
登　米	9 万人泊	＋1	石　巻	44 万人泊	＋2
気仙沼・本吉	48 万人泊	＋8	７圏域計　1,104万人泊		

目標指標	R元【実績】	R5【実績】	R9【目標】	ポイント
外国人観光客宿泊者数	53.4 万人泊	51.5 万人泊	120 万人泊	☞消費額単価の高いインバウンドの取り込みを強化します。

2. 第6期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策②

戦略プロジェクト・取組の方向性

今後の取組の方向性を以下の４つに分類し、既存財源に加え、宿泊税を有効活用しながら、観光施策の充実・強化を図ります

戦略1　魅力ある観光資源の創出

● 県内宿泊者数や滞在時間の増加、繁閑期の平準化のため、「食」、「自然」、「歴史・文化」を活用した宮城ならではの観光コンテンツの造成を推進するとともに、市町村や観光関連事業者の創意工夫ある取組を支援します。

取組イメージ

・市町村毎の独自色を活かした観光地域づくり
・アウトドアコンテンツの利用促進（宮城オルレ、みちのく潮風トレイル等）
・教育旅行の誘致促進　等

＜宮城オルレの新規コース造成＞

戦略2　観光産業の活性化

● 観光産業が抱える人手不足や宿泊施設の収益力の向上に向けて、人材確保やデジタル技術の導入等を推進します。

取組イメージ

・省人化・省力化設備の導入推進
・就職マッチング機会の創出や定着・スキルアップ支援　等

＜従業員のスキルアップ研修＞

2. 第6期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策③

戦略3　観光客受入環境整備の充実

● 観光地の魅力向上に向けた面的な整備や、インバウンドをはじめとする旅行者の利便性向上のための受入環境整備を推進するほか、空港や駅などと観光地を結ぶ交通アクセスの充実を図ります。

取組イメージ

・観光地全体の魅力向上（ライトアップ、廃屋撤去等）
・観光施設等のキャッシュレス対応・多言語化の推進
・シャトルバス、レンタカー、乗合タクシーによる周遊促進　等

＜周遊バスの運行＞

戦略4　国内外との交流拡大の促進

● アジア圏からの更なる誘客に加え、欧米豪の新規市場開拓に向け、東北観光推進機構や東北各県と連携したプロモーションを行うほか、アウトバウンドやスポーツツーリズムの推進に取り組みます。

取組イメージ

・海外市場別のプロモーションの強化
・県内学校の海外教育旅行の推進
・プロスポーツと連携した誘客、学生スポーツ大会・合宿誘致の推進　等

＜欧州からのインバウンドモニターツアー＞

3. 宿泊事業者の皆様からの声を踏まえた宿泊税活用施策イメージ

事業者の皆さまからの声

求められる対応

施策の方向

事業者の皆さまからの声	求められる対応	施策の方向
宿泊客が減っており経営が厳しい 日帰り客が多い 地域の賑わいが失われている	その地域に来たい、過ごしたいと思える地域の魅力を高めることが必要	魅力ある観光コンテンツの磨き上げ・創出のための体制づくり
交通アクセスが悪いので足を運んでもらえない	その地域に円滑に足が運ぶことができる仕組みづくりが必要	仙台からの送客・周遊性向上のための二次交通対策
スタッフがなかなか定着しない 人手不足で稼働率を上げられない	人材育成のためのサポート、やりがいを感じられる組織体制支援が必要 人材確保のための取組が必要	快適な旅行環境のための受入環境整備（人材育成・人材確保対策等）
新たなお客さんに泊まってほしい 地域のこんな魅力を感じてほしい	地域の魅力を広く発信できる仕組みづくりが必要	ターゲットを意識した効果的なプロモーション

4. 御意見を頂戴したいこと

第6期みやぎ観光戦略プラン「石巻圏域の施策の方向」について定めた4つの「施策の方向性」について、御意見等をお願いします。

1　宿泊観光客数増加に向けた滞在型・周遊型観光の推進

- ●観光資源の磨き上げ等により、地域の独自性や特色を最大限活かした「石巻圏域ならでは」の観光資源づくりを進めていくために必要な支援策は何ですか？
- ●タクシーやバス、レンタサイクルなどの多様な二次交通手段の確保や、交通情報の提供など、観光客が効率よく、迷うことなくスムーズに観光地間を移動できる環境を整備を進めるために必要な支援は何ですか？
- ●宿泊施設における高付加価値化や滞在中のサービス充実など、宿泊客の多様なニーズに応えるための取組を進めていくために必要な支援は何ですか？

2　インバウンド獲得に向けた観光資源の磨き上げ

- ●石巻圏域の魅力を海外に発信して認知度を高め、海外からの観光客誘致を促進するために必要な支援は何ですか？
- ●外国人観光客が安心して石巻圏域の魅力を楽しむことができる環境整備を進めていくために必要な支援は何ですか？

3　交流人口・関係人口の拡大に向けた地域間交流の推進

- ●近隣地域との連携強化を図っていくために必要な支援は何ですか？
- ●県内外の石巻圏域のファンを増やしていくために必要な支援は何ですか？

4　地域一体となった観光振興の推進

- ●石巻圏域のDMO（観光地域づくり法人）を中心に、2市1町、企業・団体、住民などの多様な関係者を巻き込みながら協力体制の構築を進めていくために必要な支援は何ですか？

上記1～4に関わらず、宿泊事業者の皆さまが必要としている支援など、
現場感に基づいた御意見、御提案をお願いします！！